

September 20, 2022

【前日の為替概況】ドル円、米10年債利回り3.5158%で143.64円まで上昇後143.15円まで反落

19日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反発。終値は143.21円と前営業日NY終値(142.92円)と比べて29銭程度のドル高水準だった。米10年債利回りが一時3.5158%前後と2011年以来約11年ぶりの高水準を記録すると円売り・ドル買いが先行。21時前に143.64円と日通し高値を付けた。ただ、前週末の高値143.69円が目先レジスタンスとして意識されると徐々に上値が重くなった。米10年債利回りが3.45%台まで上昇幅を縮めたことも相場の重しとなり、143.15円付近まで下押しした。9月全米ホームビルダー協会(NAHB)住宅市場指数が46と予想の47を下回ったことも相場の重荷。

なお、20-21日の米連邦公開市場委員会(FOMC)ではインフレ抑制に向け、3会合連続で通常の3倍となる0.75%の利上げが見込まれている。また、同時に公表される政策金利見通し(ドット・チャート)は前回6月に比べて大幅に引き上げられる見通しとなっている。

ユーロドルは小幅ながら4日続伸。終値は1.0024ドルと前営業日NY終値(1.0016ドル)と比べて0.0008ドル程度のユーロ高水準だった。欧州序盤に一時0.9966ドルと日通し安値を付けたものの、英国市場が休場で取引参加者が減少していることもあって、積極的に下値を探る展開にはならなかった。

NY市場に入ると、米長期金利が上昇幅を縮めたことなどを手掛かりにユーロ買い・ドル売りが進行。FOMCなど重要イベントを控えたポジション調整目的のユーロ買い・ドル売りも入り、5時過ぎに一時1.0028ドル付近まで持ち直した。

ユーロ円は反発。終値は143.54円と前営業日NY終値(143.22円)と比べて32銭程度のユーロ高水準。欧州序盤に一時142.80円と日通し安値を付けたものの、売り一巡後は買い戻しが優勢に。ユーロドルの持ち直しにつれた買いが入り、5時30分前には143.62円と日通し高値を付けた。

【本日の東京為替見通し】日米金融政策決定会合を控えて動きづらい展開か

本日の東京外国為替市場のドル円は、本日からの米連邦公開市場委員会(FOMC)や明日からの日銀金融政策決定会合を控えて動きづらい展開が予想される。

ドル円のテクニカル分析では、ダブル・トップ(144.99円・144.96円)を形成しつつあり、ネック・ライン141.51円を下抜けた場合、約3.50円幅の下落の可能性が高まることで要警戒か。本日は、過去9日間のレンジの中心値である一目均衡表の転換線143.24円を軸とした値動きが予想される。

8時30分に発表される8月全国消費者物価指数(CPI、生鮮食品を除く総合)は、前年比+2.7%と予想されており、7月の前年比+2.4%からの上昇が見込まれている。携帯電話通信料は、21年4月、8月、10月に断続的に値下げが実施されており、マイナス寄与剥落により、4月は前年比+2.0%台乗せとなり、8月は前年比+2.0%台後半、そして、値下げの影響が完全になくなる10月以降は、+3%台に伸び率を高めるとみられている。

8月の消費者物価指数が予想を上回る上昇を示した場合、21-22日に開催される日銀金融政策決定会合で、イールドカーブコントロール(YCC)の「年限の短期化」とゼロ%を中心に上下0.25%程度としている長期金利の「許容変動幅の拡大」という金融政策正常化が議論される可能性に警戒感となる。

リスクシナリオは、日銀が金融政策正常化に踏み出したタイミングでの本邦通貨当局によるドル売り・円買い介入の断行だが、岸田政権はインバウンド(訪日外国人客)の増加を円安対策の柱にしようとしている模様で、円買い介入の可能性は低いと思われる。

9月18日放映のCBSテレビの報道番組「60ミニッツ」で、バイデン米大統領は、ロシアのウクライナ戦略、中国の台湾戦略に警告することで、地政学リスクを高めており、リスク回避の円買いの可能性は念頭に置くべきかもしれない。ロシアに対しては、「ウクライナで化学兵器や戦術核を使用すれば、第2次大戦後なかった状況へと戦争を変質させる」と述べ、「使ってはならない(Don't, Don't, Don't)」と3回繰り返した。中国に対しては、「中国が台湾に侵攻した場合、米軍は台湾を防衛する」と明言した。米国は1979年に中国と国交を樹立し、台湾と断交したものの、台湾関係法により、台湾に自衛のための武器供与を約束している。そして、これまでは台湾防衛をするかどうか明確にしない「戦略的な曖昧さ」を維持し、中国による侵攻と、台湾が独立宣言を行って中国を刺激する事態を回避してきた。バイデン米大統領が「戦略的な曖昧さ」に反する台湾防衛に言及するのは、就任後4回目だが、ホワイトハウスはこれまで通りに打ち消している。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:30 ☆ 8月全国消費者物価指数（CPI、生鮮食品を除く総合、予想：前年比2.7%）

○08:30 ☆ 8月全国CPI（生鮮食料品・エネルギー除く、予想：前年比1.5%）

○岸田文雄首相が国連総会で一般討論演説

<海外>

○10:30 ◎ 9月豪準備銀行（RBA）理事会議事要旨

○15:00 ◇ 8月独生産者物価指数（PPI、予想：前月比1.6%）

○16:30 ◎ スウェーデン中銀、政策金利発表（予想：1.50%に引き上げ）

○17:00 ◇ 7月ユーロ圏経常収支（季節調整済）

○17:00 ◎ ミュラー・エストニア中銀総裁、講演

○21:30 ◎ 8月カナダ消費者物価指数（CPI、予想：前月比▲0.1%/前年比7.3%）

○21:30 ◎ 8月米住宅着工件数（予想：145.0万件、前月比0.3%）

◎ 建設許可件数（予想：160.4万件、前月比▲4.8%）

○21日 02:00 ◎ 米財務省、20年債入札

○21日 02:00 ◎ ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁、講演

○米連邦公開市場委員会（FOMC）1日目

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

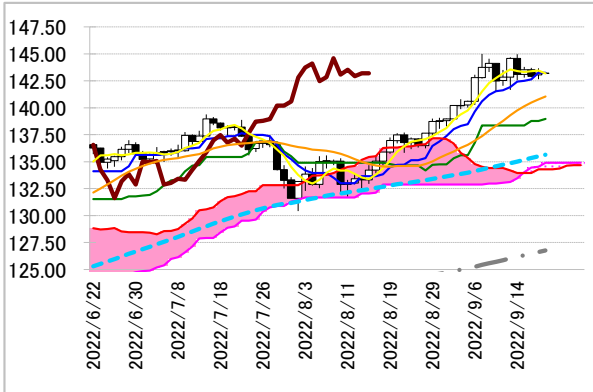
※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

19日 08:24 バイデン米大統領
「中国が台湾に侵攻した場合は米軍が防衛する」
「インフレを制御していく」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

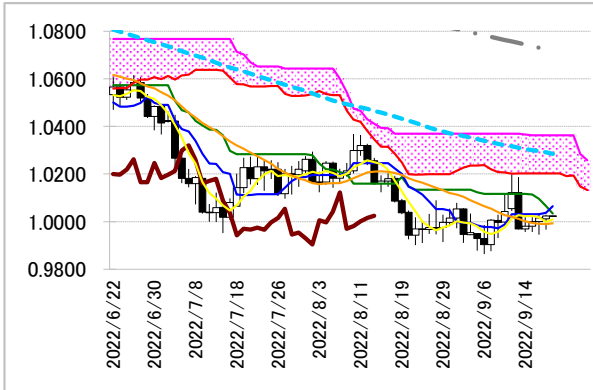


<ドル円=9/15 高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。差し込み線で反発したものの、転換線を下回って引けており反落の可能性が示唆されている。

本日は、9月15日の高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	144.99(9/7 高値)
レジスタンス 1	143.80(9/15 高値)
前日終値	143.21
サポート 1	142.55(9/14 安値)
サポート 2	141.51(9/9 安値)

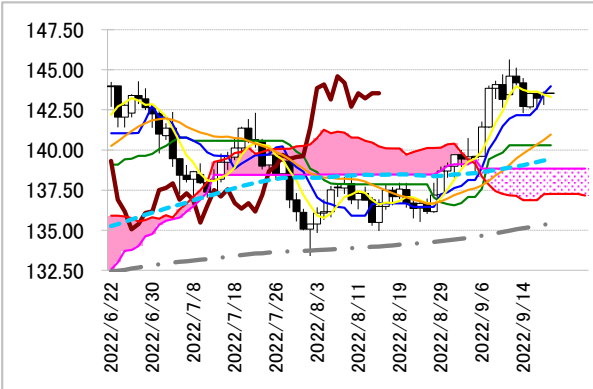


<ユーロドル=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回っているものの、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。4手連続陽線で上昇したものの、9月13日の大陰線を上回ることが出来ず、転換線を下回って引けており反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.0065(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.0024
サポート 1	0.9956(9/14・15 安値)

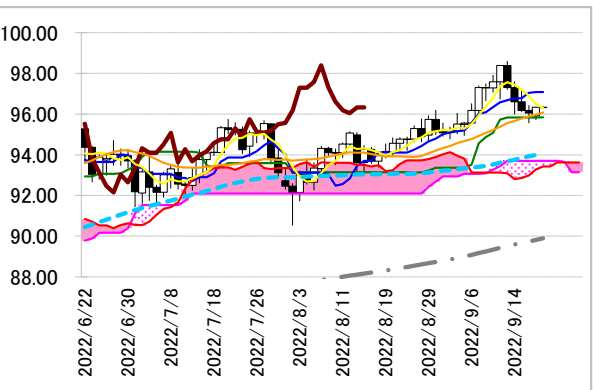


<ユーロ円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

小陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。2手連続陰線で下落して、転換線を下回って引けており続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	143.97(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	143.54
サポート 1	142.30(9/14 安値)



<豪ドル円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。しかし、4手連続陰線で下落後、抱き線で反発したものの転換線を下回って引けており反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	97.08(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	96.33
サポート 1	95.49(9/6 安値)

